

2. 火山の概況 (平成 19 年 12 月 28 日 ~ 平成 20 年 1 月 3 日)

噴火警報及び噴火予報の発表状況は以下のとおりである。



図 1 噴火警報発表中の火山

○ 火口周辺警報

噴火警戒レベル 2、火口周辺規制 : 桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
火口周辺危険 : 三宅島、硫黄島

○ 噴火警報

周辺海域警戒 : 福徳岡ノ場

○ 噴火予報

噴火警戒レベル 1、平常 : 樽前山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、
浅間山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、
霧島山(御鉢、新燃岳)
平常 : 上記以外の火山

注) 噴火警戒レベルは地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入している(現在、噴火警戒レベルが導入されている火山は 16 火山である)。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

噴火警報発表中の火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりである。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

^{みやけじま}三宅島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

噴煙高度は火口縁上概ね 200m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

今期間、火山ガス観測を行わなかったが、三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火等に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。雨による泥流にも注意が必要である。

^{いおうとう}硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化したものの現在も継続している。

硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要である。

^{ふくとくあかのば}福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）]

海上保安庁、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されている。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では警戒が必要である。

^{さくらじま}桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

国土地理院の GPS 観測によると、^{あいら}始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。

桜島では今後も南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

^{さつまいおうじま}薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 100m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では硫黄岳山頂火口から半径約 1 km の範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、この地域では噴火に対する警戒が必要である。

^{くちのえらぶじま}口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

口永良部島では^{しんだけ}新岳火口から半径約 1 km の範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、この地域では噴火に対する警戒が必要である。

^{すれのせじま}諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口から半径約 1 km の範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、この地域では噴火に対する警戒が必要である。